



川越高校生物部が電子顕微鏡で捉えたツノトゲクマムシ=佐藤健さん提供

クマムシ コケや湿った土などにすむ。独特の体の構造を持ち1000種類以上が知られる。体長は0.1ミリほど。乾くと体が縮んぐ眠(かんみん)という状になり、水を吸うと元に戻り始める。乾眠中は真空零下200度以下の低温、強放射線などにも耐え、宇宙もある程度の時間は生きらるという。クマのような体と8本脚で動く様子が受けるキャラや、お笑いなどの名前にもなっている。

川越高校生物部が電子顕微鏡で捉えたツノトゲクマムシ=佐藤健さん提供

を受けた梶田隆章・東京大特別栄誉教授の出身校。理

迫力ある姿だが体長わずか〇・二ミリほど。生物部を指導する主任実習教員の佐藤健さんが、休暇で訪れた鹿児島県霧島市の道ばたで採取したコケからみつけた。撮影用の標本作りが難しかったという。クマムシは乾くと体が縮んで角も折れやすい。アルコールなどに

(永井理)

クマムシ 捉えた

川越高 生物部 電子顕微鏡で

宇宙に放り出されても死なず「最強の生物」ともいわれるクマムシ。その迫力ある姿を埼玉県立の川越高校生物部が電子顕微鏡で捉えた。専門家も珍しい写真と評価する。

同校はノーベル物理学賞

理

マムシと呼ばれる種類。よろいのようない皮膚に覆われて鋭い角と力ギ爪を持つ。

佐藤さんは、生物部でクマムシ研究を続けてきた三

年生の大附祐也さんとともに

九月の同校文化祭では来場

者に電子顕微鏡でクマムシ

を見せる予定だ。

科教育に力を入れ、撮影に使った卓上型の電子顕微鏡は顕微鏡メーカーから無償で貸与を受けている。

撮影したのはツノトゲクマムシと呼ばれる種類。よろいのようない皮膚に覆われて鋭い角と力ギ爪を持つ。

佐藤さんは、生物部でクマムシ研究を続けてきた三年生の大附祐也さんとともに

九月の同校文化祭では来場

者に電子顕微鏡でクマムシ

を見せる予定だ。

「クマムシ博士として知られる堀川大樹・慶應大特任講師は「国内で採取されたツノトゲクマムシを電子顕微鏡で撮った例は極めて珍しい。貴重な写真だ。高校でここまでできるのはすごい」と拍手を送る。

佐藤さんは、生物部でクマムシ研究を続けてきた三年生の大附祐也さんとともに

九月の同校文化祭では来場者に電子顕微鏡でクマムシを見せる予定だ。

東 康一